

みんなで繋がる子ども食堂

2年1組 赤松 沢朗 2年1組 桑山 朝光 2年1組 寺岡美紗妃
2年2組 谷口 芽生 2年2組 榎本 笑美
指導者 谷田美穂子

1 課題設定の理由

宇和島市は南海トラフ地震によって、甚大な被害を受けると想定されている。宇和島市の子ども食堂と防災について考えていた時、2018年の西日本豪雨災害をきっかけに設立し、精力的に活動している特定非営利活動法人 U.grandma.Japan(以下「うわじまグランマ」と称す)を知った。うわじまグランマは、子ども食堂の開催にも力を入れていることから、宇和島市の子ども食堂と防災を結びつけ、子ども食堂が災害時に果たす役割を明らかにし、子ども食堂の持続的な運営のために解決すべき課題と私たちにできる解決策を考案する。

2 子ども食堂とは

子ども食堂は、子どもが1人でも行ける無料または低額の食堂であり、子どもへの食事提供から孤食の解消や食育、さらには地域交流の場などの役割を果たしている。「子どもの貧困対策」と「地域の交流拠点」という2つが活動の柱となる。これは民間の自発的な取り組みで、2012年の誕生から、8年間で全国3,700カ所を超えた。(厚生労働省ホームページより引用)

3 研究方法

- (1) 宇和島市子ども食堂連絡協議会にインタビュー
- (2) フードドライブの実施
- (3) 子ども食堂に参加。参加した東高生を対象にアンケートの実施
- (4) 子ども食堂の企画提案

4 結果と考察

- (1) 宇和島市子ども食堂連絡協議会にインタビュー

ア 災害時の対応

- ① 地域の人と繋がれる。災害時に全く知らない人たちと避難生活を送るよりも普段から繋がりを持つことで災害時も知っている人となり、状況によっては頼れる人が分かる。
- ② 物資についてはうわじまグランマに集めて、配布できるようにしたい。県外や他の地域で災害が発生したら物資を現場に配送する。
- ③ 他の子ども食堂とのネットワークができており、災害時にも連携が取れる。

イ 災害時の課題

- ① ボランティアであるがゆえに物資を集める場所、運搬する運転手などが決まらない。
- ② 非日常を日常にする「フェーズフリー」の実践

ウ 子ども食堂運営について

- ① 吉田町、三間町など旧宇和島市外は親子三世代、地域住民などの絆が強い、しかし、旧宇和島市内ではそういった繋がりが希薄である。普段からの繋がりを大切にしたい。
- ② 食材は、子ども食堂の広報活動や情報網を作ることによって個人農家で規格外の廃棄予定だった食材や企業からの食材を提供していただくことが増えた。

エ 子ども食堂運営の課題

- ① 銀行からの支援金約40万円と宇和島市からの補助金1万円で賄っているため経営が厳しい。(使用している場所の維持費など)

- ② 食品や物資を運ぶ運転手不足が問題である。
- ③ ボランティア募集の広報活動。
- ④ 高齢者主催の子ども食堂は SNS などでの PR が難しい。学生の協力が欲しい。
- ⑤ 高校生である私たちにできることは実際に活動に参加し、繋がりを実感して欲しい。

(2) フードドライブの実施

家庭クラブと連携し11月23日～27日の1週間、フードドライブを実施した。さくら連絡網で啓発活動を行った。総数172個、総重量27,191gの食品を寄付していただき、宇和島市役所に寄付し、活用していただいた。

(3) 子ども食堂に参加

8月～12月にTeamsを利用して全校生徒にボランティア募集の呼びかけを行った。のべ25名の本校生徒が参加した。参加した生徒を対象にアンケートを行った（**図1**、**図2**）。

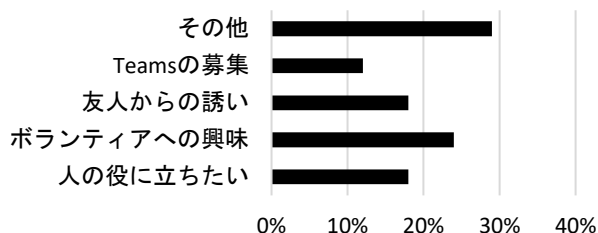


図1 子ども食堂に参加するきっかけ

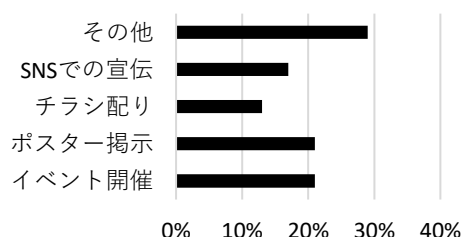


図2 参加者を増やすための工夫

【アンケート結果と考察】

実際に子ども食堂に参加してみて、主催者の思いや地域の方との繋がりを実感することができた。アンケートの結果から、ボランティア活動に参加するきっかけとして、ボランティアへの興味や人の役に立ちたいといった思いなどが挙げられる。参加者を増やすためには、様々な形で広報活動を行い、多くの人に子ども食堂を知ってもらうことが有効であると考えられる。

(4) 子ども食堂の企画提案

子ども食堂には子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々の交流がある。そこで子どもとお年寄りが一緒に楽しめる昔遊びや、東校生オリジナルのアクティビティを考案した。

ア 昔遊び かるた、折り紙、けん玉、あやとり、やじろべえ、とんとん相撲、メンコなど
イ 東高生ならではのアクティビティ

校内で宝探しゲーム、陸上部による足を速くするための講座、勉強会、理数科とコラボして科学の実験、オリジナルおもちゃを作ってプレゼント など

ウ みんなで楽しめる遊び クイズ、お絵かき、パラバルーン、フルーツバスケットなど

5 まとめと今後の課題

子ども食堂は、地域の人々の交流の場になっており、子ども食堂での交流が災害時などあらゆる場面で役立つと分かった。また、子ども食堂の運営には私たちの積極的なボランティア活動への参加が必要であり、これからもTeamsなどの啓発活動に力を入れ、多くの人々のボランティア参加に繋げていきたい。

参考文献

- ・厚生労働省(2020), 子ども食堂の役割, 広報誌「厚生労働」2020年10月号 | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)
- ・うわじまグランマホームページ U.grandma Japan | 細かい配慮ができる支援を目指す宇和島市のNPO 法人ウワジマグランマ (u-grandma.jp)